

**授業概要**

エドガー・アラン・ポーを中心として、英語圏のゴシック小説の傑作を分析する。その映画化作品も同時に議論してゆくことで、「読む」という行為を拡大し、「分身」というテーマの意味を考察する。また、それらの文学が書かれた文化的背景に迫ると同時に、文学を通じた「他者理解」を目指して講義する。

**授業計画**

|        |  |
|--------|--|
| 第 1 回  | ゴシック文化とは何かー『オトランドの城』と『カリオストロの城』        |
| 第 2 回  | アメリカン・ゴシックについてーエドガー・アラン・ポーや POV 映画との関連 |
| 第 3 回  | 魔女とホーソーナー『ヤング・グッドマン・ブラウン』『緋文字』         |
| 第 4 回  | エドガー・アラン・ポーとは何者かー『推理作家ポー』における作家イメージ    |
| 第 5 回  | ポーの「ウィリアム・ウィルソン」論ー古典的分身物語              |
| 第 6 回  | ポーの「モルグ街の殺人」論ー猿の反逆・奴隷・分身               |
| 第 7 回  | ポーの「群衆の人」ー推理小説の誕生                      |
| 第 8 回  | ポーの「使い切った男」ー人造人間の文化史                   |
| 第 9 回  | ハーマン・メルヴィルの『白鯨』論ーモビィ・ディックとエイハブ船長       |
| 第 10 回 | 推理小説の文化史ーホームズと『斑の紐』『四つの署名』             |
| 第 11 回 | ラフカディオ・ハーンー多文化的妖怪の文学                   |
| 第 12 回 | H・P・ラヴクラフトのゴシック小説                      |
| 第 13 回 | クトゥルフ神話とキャラクター文学                       |
| 第 14 回 | 『オズの魔法使い』の少女と魔女の物語                     |
| 第 15 回 | ゾンビを使った文学ー古典の劣化/進化論                    |
| 第 16 回 | 定期試験                                   |

**到達目標**

- ・学生が共通のテーマの下で選出した英語圏の文学を読むことで、これらの作品が書かれた文化的背景を把握し、異文化理解を深めることができる。
- ・学生が異文化を理解することで、国語の読解力を育成することができる。

**履修上の注意**

楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。授業時にはコメントペーパーを配布するので、授業の終わりにできるだけ多く質問や感想や意見を書いて提出すること。多くの資料を配布するのでファイルを持参のこと。普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。

**予習・復習**

前もって配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。また、興味をもった作品は、自分で自発的に読んでもらいたい。

**評価方法**

学期末試験（60%）、コメントペーパー（40%）による評価。

**テキスト**

毎回授業で資料を配布、また参考文献については適宜指定する。

**授業概要**

この授業では、劇作家ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の作品（戯曲）および、同時代の劇場での上演についてとりあげる。主要作品を、主に翻訳で講読しながら、作品の理解を深めるために、シェイクスピアが活躍した16世紀末から17世紀初頭の、現代とは違う劇場の特徴、当時の上演状況などもくわしくみていく。演劇を文学作品のテキストとして読むことの基本を学びながら、「せりふ」の持つ可能性に注目し、想像力を最大限に生かして豊かな演劇の世界を楽しむことができるよう授業を進めていく。

秋期の英語圏文学特論（古典）につながる科目である。

**授業計画**

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 第 1 回  | イントロダクション：シェイクスピアとその時代 |
| 第 2 回  | シェイクスピアの時代の劇場とその上演について |
| 第 3 回  | シェイクスピアの歴史劇①           |
| 第 4 回  | シェイクスピアの歴史劇②           |
| 第 5 回  | シェイクスピアの喜劇①            |
| 第 6 回  | シェイクスピアの喜劇②            |
| 第 7 回  | シェイクスピアのローマ史劇①         |
| 第 8 回  | シェイクスピアの喜劇③            |
| 第 9 回  | シェイクスピアの悲劇①            |
| 第 10 回 | シェイクスピアの悲劇②            |
| 第 11 回 | シェイクスピアの悲劇③            |
| 第 12 回 | シェイクスピアの悲劇④            |
| 第 13 回 | シェイクスピアの悲劇（⑤）          |
| 第 14 回 | シェイクスピアのロマンス劇①         |
| 第 15 回 | まとめとフィードバック            |
| 第 16 回 |                        |

**到達目標**

古典文学作品の持つ可能性をさまざまな観点からより深く理解するため、以下のことを目標とする。

- ・古典作品の成立過程の歴史的背景や文化的背景を理解できる。
- ・戯曲の台詞をさまざまなコンテクストに即して読むことができる。
- ・作品が上演された時代についての知識を得ることができる。
- ・古典作品が現代において上演される際の演出可能性を理解できる。

**履修上の注意**

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目でもある。授業で使用するテキストは、できれば翻訳を購入するか、図書館で貸出し、じっくり読んでほしい。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

**予習・復習**

プリントで配布したテキストの抜粋などに関しては、自分で読み、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。テキスト以外に授業で取り上げた内容について、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

**評価方法**

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパーなどを点数化し、学期末に実施する試験と合わせて、総合的に評価する。学期末試験50%、各種課題25%、授業への取り組み25%。

**テキスト**

主要作品の抜粋などは、プリントなどを用いるが、購入してもらうテキスト、参考図書については、授業中に、随時指示する。